

令和6年3月吉日  
駒の学び舎  
世田谷区立駒沢中学校  
校長 和田 直樹

## 令和5年度の改善方策に基づく改善結果について

### 1 「w e b上によるアンケート回答率の向上」について

アンケートの回収率は、令和4年度の回答率である46.5%から、本年度（令和5年度）は、68.0%と21.5ポイント増加した。

これは、本年度、連絡システムアプリである「すぐーる」のアンケート機能を併用し、保護者へのお願いを複数回実施したことによる成果であると考えている。本システムを活用することで、未回答の保護者に限定して、再度のお願いを配信することが可能となり、効率的に回収を行うことができた。次年度も継続して、保護者への呼びかけを徹底していく。

一方で、生徒の回答率は、1年62%、2年95%、3年75%、全体77.5%と十分な回答率とは言えない結果となった。回答率が上がらなかった要因として考えられるのは次の2点である。

- ① 欠席者（不登校生徒を含む）の回答回収を徹底できなかった。
- ② Web回答の最後の送信ボタンの未押下により、本人は回答したつもりでも、回答内容が送信されていなかったことによる未回答が複数生じた。

①の理由については、来年度は別室登校生徒にも回答を求めるなど、学校に来ることが難しい生徒の意見を吸い上げられるよう対策を講じていく。

②の理由については、改めて生徒の回答時にWeb回答での失敗事例を紹介するなど、回答時の指導を徹底していく。

### 2 「保護者の来校機会を増やし、子どもの姿を知る学校公開の努力」について

今年度、新型コロナウィルス感染症の新しいガイドラインに基づき、多くの行事で来校制限を緩和、もしくは撤廃して学校開放を実施した。また、学校ホームページの内容の整理を開始し、これまでたまっていた不要な情報を削除するとともに、学校日記を毎日更新するなど、子どもの姿の配信を進めた。

こうした取組の成果からか、少しづつ来校者数は増加している。しかし、まだ十分な数とは言えない。学校評価アンケートの回答にも、「私は、学校公開に進んで参加している」の肯定的評価が、57.4%という結果にとどまってしまっている。さらには、「1年生の保護者において「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」との項目で、24.2%が「分からぬ」と回答するなど、効果的な情報の発信が不十分だったと考えられる結果となった。

来年度は、学校ホームページのさらなる活用に取り組むとともに、行事について、通常の通知の他に、保護者が親しみやすい周知の方法（チラシの配布など）を検討することで、保護者さらには地域の学校教育への更なる参加を促していく。